

南区の概要

①位置と地勢

南区は、本市の南部に位置し、北は西区・中央区に、東は東区、嘉島町・甲佐町・御船町に、南は宇土市・宇城市に接しています。

区内の大部分は水田からなる農業の盛んな地域で、加勢川、緑川が東西に貫流し、加えて天明新川や浜戸川など多くの中小河川が区内を流れています。



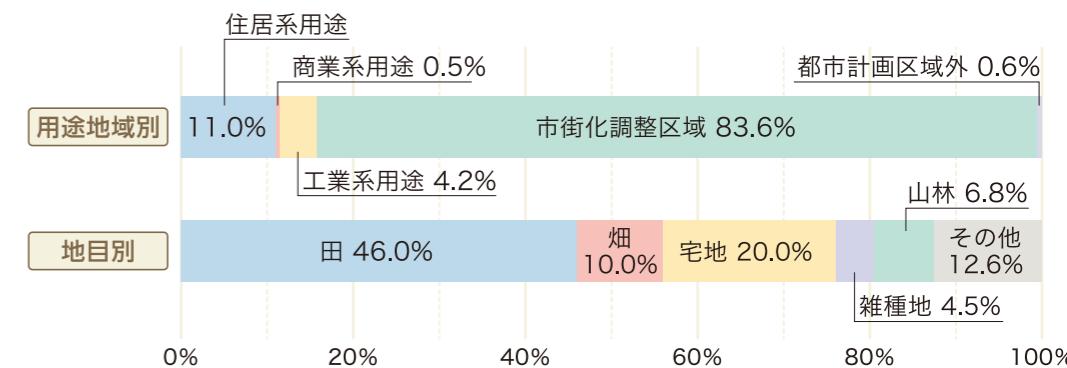
②面積

南区の区域面積は 109.86km^2 と、北区に次ぐ広さで、市面積の30%近くを占めています。

	面積	全市に占める割合(%)
東区	50.07km^2	12.9%
西区	88.80km^2	22.8%
南区	109.86km^2	28.2%
北区	115.35km^2	29.6%
中央区	25.46km^2	6.5%
合計	389.54km^2	100.0%

③土地の利用状況

南区の土地利用状況は、用途地域別では、市街化区域が約16%と少なく、ほとんどが市街化調整区域です。また、土地利用の地目別に見ると、田・畠が56.0%を占めており、半分以上が農業的土地区域です。



④人口・世帯数の推移

南区の人口は、122,600人、世帯数は43,499世帯（いずれも平成22年国勢調査確定値）となっており、平成7年以降、増加傾向にあります。

5区の中では、人口、世帯数とも4番目となっています。

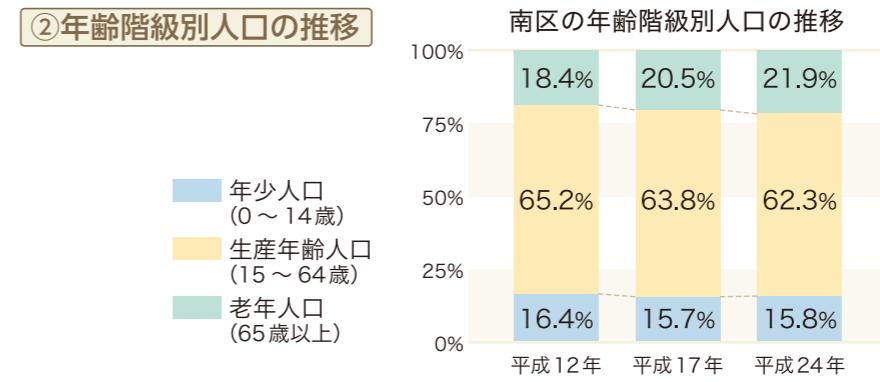
①人口・世帯数の推移



	人口	世帯数
東区	188,082	74,942
西区	93,805	37,610
南区	122,600	43,499
北区	145,634	54,120
中央区	184,353	92,242
合計	734,474	302,413

(H22 国勢調査)

②年齢階級別人口の推移



	高齢化率	年少人口比率
東区	18.5%	15.8%
西区	26.0%	13.1%
南区	21.9%	15.8%
北区	23.1%	14.7%
中央区	21.3%	12.9%
合計	21.6%	14.5%

※平成12年、平成17年は国勢調査、
※平成24年は住民基本台帳10月1日現在

5 産業構造

南区の産業構造を産業別就業者人口でみると、南区は第1次産業の割合が6.6%と西区の8.5%に次いで高く、全市平均の3.9%を大きく上回っているのが特徴です。

産業別就業者

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
東区	1,166人 (1.4%)	15,423人 (18.6%)	66,400人 (80.0%)
西区	3,386人 (8.5%)	6,099人 (15.4%)	30,138人 (76.1%)
南区	3,576人 (6.6%)	10,256人 (19.0%)	40,240人 (74.4%)
北区	3,772人 (6.1%)	13,230人 (21.5%)	44,562人 (72.4%)
中央区	413人 (0.5%)	9,786人 (12.3%)	69,201人 (87.2%)
合計	12,313人 (3.9%)	54,794人 (17.2%)	250,541人 (78.9%)

(H22 国勢調査)

6 道路・公共交通

(1) 道路

南区の主な幹線道路として、南北に国道3号、国道266号、国道501号、主要地方道小川嘉島線が走っています。また、国道57号及び主要地方道熊本港線、主要地方道熊本嘉島線、主要地方道宇土甲佐線などが、東西を走る幹線道路となっています。



この他、九州自動車道の城南バス停を利用して、平成28年を目指して城南スマートインターチェンジの設置が予定されています。



(2) 公共交通

中心市街地と南区を結ぶ路線バスとして、川尻市道や国道3号を経由し、宇土市・宇城市方面への路線、熊本駅から飽田地域、天明地域の川口地区へ至る路線、南熊本駅から一般県道熊本浜線を経由し、城南地域へ至る路線が運行されています。



また、区内の各地域間を結ぶ、コミュニティバス「ゆうゆうバス」が運行を開始し、南区では飽田、天明、川尻地区を走っています。

路線バスの他、主な公共交通として、JR鹿児島本線が縦断しており、川尻駅、富合駅の2駅があります。また、島町・上ノ郷地区に新駅設置計画があります。

7 南区のたからもの

四季を彩るのどかな田園風景、全国屈指の生産量を誇るナスやトマトの他、メロンやきゅうり、花き、海苔、ハマグリ等の豊かな農水産物、アクアドームや浜線健康パークなど健康づくりの拠点となるスポーツ施設の集積、城南・富合の工業団地や熊本流通業務団地などの製造、流通の拠点、多くの国、県、市の指定文化財や史跡等の歴史的資源、身近に親しむことのできる山・川・海の自然、人の優しさや地域のつながり等、南区にはたくさんの“たからもの”があります。



※詳細は資料編に掲載しています。